吉松小学校における教科担任制の工夫

～専門性を生かして、子供たちの学びと教員の働き方をよりよく～

湧水町立 吉松小学校

小学校高学年教科担任制による算数科授業のひとコマ

1. 算数の専門性を生かした授業の質向上

吉松小学校では、令和5年度から高学年の算数において教科担任制が導入されました。これまでは、学級担任が国語・算数・理科・社会など、ほとんどの教科を教えるのが一般的でしたが、算数を専門とする教員を置くことで、授業の質をさらに高めることを目指しています。

教科担任制は、一人の教員が複数学級を担当するため、同じ内容を繰り返し指導することができます。最初の授業で出てきた子供たちのつまずきや疑問点を分析し、次のクラスで改善を加えて実践できます。そのことにより、どの学級の子供たちにも「分かりやすい授業」を届けることが可能になりました。また、算数を専門とする教員が担当することで、難しい問題に対しても、多様な説明の仕方を工夫したり、ICTを効果的に活用したりする取り組みが進んでいます。子供たちの「なるほど！」という表情や「もう一問挑戦したい！」という声が増えたのは、大きな成果です。

その結果、全国学力・学習状況調査等の各種学力調査で、算数の平均正答率が導入前より着実に上昇しました。数値として裏付けがあることは、学校としても大きな自信となり、児童・保護者にとっても、安心材料となっています。

2. 複数の教員が関わる安心感

教科担任制のもう一つの大きな利点は、子供たちを複数の教員で見守ることができる点です。

これまでは、学級担任だけが中心となって子供を見ていましたが、算数の授業を別の教員が担当することで、子供たちにとって、「担任以外にも、自分のことを知っている先生」が増えました。

その結果、授業中の姿勢や取り組み方、学習面でのつまずきなどを算数担当の教員が把握し、学級担任と共有することで、支援の幅が広がりました。例えば、授業中に集中力が途切れやすい児童に対して、算数担当の教員と学級担任が情報を交換し合い、家庭学習の工夫や声掛けの方法を検討するといった協力体制が築かれています。

また、子供たち自身も「いろいろな先生が関わってくれるのが嬉しい」と前向きに捉えています。

学年全体を複数の教員で見守ることで、一人の教員だけでは気づけなかった側面を発見でき、児童理解がより多面的になりました。

難易度の高い問題に挑戦

3. 教員の働き方改革にもつながる

教科担任制の導入は、教員の働き方にもプラスの効果をもたらしました。

学級担任が担当する授業数が減ることで、教材研究や授業準備にかける時間が確保されました。その時間を活用して、授業内容を検討したり、児童の学習状況について話し合ったりすることができています。特に、同じ教科を複数学級で担当する教員は、指導方法の改善を重ねやすく、指導力の向上につながっています。

また、教科担任制導入前と比べて、教員の時間外勤務が減少したという感想も出ています。結果として、教員が心身ともに余裕をもって授業や生徒指導に臨めるようになり、それが子供たちの学びに良い影響を与えるという好循環が生まれています。

まとめと実感

吉松小学校での算数を中心とした教科担任制は、

・子供たちの学力向上（学力調査の結果にも改善が表れています）

・複数の教員の目による多面的な児童理解と安心感

・教員の働き方の改善

という3つの大きな成果をもたらしています。

子供たちの笑顔や学ぶ意欲の背後には、教員の工夫と努力があります。実際に、私自身が授業を担当してみても、子供たちが「分かった！」と喜んだり、積極的に発表したりする姿が増えたことを強く実感しました。授業を重ねるごとに改善点を次に生かせるのは、教科担任制ならではの魅力です。こうした積み重ねが確かな成果につながっています。

保護者の声

・算数の授業が今までよりもっとわかるようになって楽しいと言っています。

・中学校からは、教科ごとに先生が替わるので小学校高学年のうちから慣れておくのはとてもよいことだと思います。

・通知表や教育相談の内容から、担任の先生と教科担任の先生との連携がとてもよくなされているということを感じ、安心しています。

（教諭　福吉真弥）

じっくり考える時間の確保